

11月 土居隣保館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 ぶんか ひ 文化の日	4 ふりかえきゅうじつ 振替休日	5	6	7 ｽｰｱﾌﾞﾋﾞｯｸ 10:00～	8	9 とうぐうしゅうかいしょ 東宮集会所 お茶会 14:00～
10	11 クラフト バンド教室 10:00～	12	13	14 ｽｰｱﾌﾞﾋﾞｯｸ 10:00～	15 しゅうがくぜん 就学前 こうえんかい 講演会 19:00～	16 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00～
17	18	19	20	21 ｽｰｱﾌﾞﾋﾞｯｸ 10:00～	22 じんけんざだんかい 人権座談会 18:30～	23 きんろうかんしゃ 勤労感謝の 日
24	25	26	27	28	29	30

就学前講演会を開催します

日 時：11月15日（金）19:00～21:00 場 所：土居隣保館
演 題「人として～学びのちから～」
講 師：八幡浜ふれあいセンター 館長 登口 加代さん

2024年度 四国中央市 人権のつどい

日 時 12月1日（日）13:00～16:00

場 所 福祉会館4階多目的ホール（小・中学生人権作品表彰・発表）

人権講演会 14:00～15:30

人権講演会 14:00～15:30 講師 あっきー（飯田あきるさん）

演 題 性の多様性と人権～性別から考える～

ど い り ん ぽ か ん だ よ 土居隣保館便り

れいわ ねん
令和6年

11 月号

発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

ど い り ん ぽ か ん じんけん 土居隣保館 「人権のつどい」を開催しました。

10月9日（水）19時から土居隣保館人権のつどいを開催しました。

今回の人権のつどいでは、2つの場面について、色々な場면을想定し、自分ならどう答えるか、どう行動するかを考えました。そして、グループで意見を交換し合うワークショップを行うことで、もう一度自分を見つめ直し、目の前の大切な人と確かに繋がっていける自分のあり方を考えました。

初めに「自分のことについてカミングアウトされたとき」どう答えるか。

カミングアウトされる相手は家族や友達で、内容は生まれた場所や性に関すること。

様々な場면을想定して考え、意見交換をしました。

次に「寝た子を起こすな」という発言を聞いたときどう答えるかを考えました。

日常生活の中で、「寝た子を起こすな」という言葉を使わずに、「もう差別はなくなっている。」「同和教育をしてわざわざ教えるから差別する人がいる。」「自分は差別をしたことがない。そっとしておけば差別はなくなる。」「高齢の人が差別をしていることが多いので、知らない世代には教えない方がいいと思う。」など「寝た子を起こすな」と似た言葉を聞くことがあります。そんな時に自分ならどう答えるかを

考えました。



The Best Paper City

感謝、そして未来へ

カミングアウトされたときでは、「話^{はなし}をしてくれたことに感謝^{かんしゃ}する。否定^{ひてい}せずありのま
まの個人^{こじん}を受けとめる。聞いた後^{きあと}はいつも通り関わることで、相手^{あいて}の気持ち^{きもち}が楽^{らく}になると
思う。こういったことを話せる関係^{はなかんけい}は大切にしていきたい。」「今後^{こんご}どうしていくか一緒^{いっしょ}に
考^{かんが}えていこうと伝える。」「そのことについて話したり、考^{かんが}えたりする今回の人権^{こんかいじんけん}のつど
いのような機会^{きかい}があることを伝え、自分自身^{自分}も一緒^{いっしょ}に学^{まな}び知^しっていく。」などたくさんの
意見^{いけん}が出ました。その人^{ひと}を受け入れて、一緒^{いっしょ}に考^{かんが}え学^{がく}習^{しゅう}していくという内容^{ないよう}の意見^{いけん}が多
かったです。



寝^ねた子^こを起こすなという発言^{はつげん}を聞いたときどう答^{こた}えるかでは、「差別^{さべつ}について正^{ただ}しく学^{まな}
んでいないと、自分が被害者^{じぶんひがいしゃ}にも加害者^{かがいしゃ}にもなってしまう。知らないうちに相手^{あいて}を傷^{きず}つけ
てしまう。」「もし、自分^{自分}や自分の家族^{かぞく}が当事者^{とうじしゃ}だったとしても同じ^{おな}ことが言^いえるのか？見
ようとしないと何も見えないし、気付^{きづ}かない。」「私^{わたし}は差別^{さべつ}をしていないという人^{ひと}に、自分^{自分}
はまだまだ偏見^{へんけん}があり、知らないうちに人^{ひと}を傷^{きず}つけてしまい反省^{はんせい}することがあるので
勉^{べん}強^{きょう}中^{ちゅう}ですと伝える。」「インターネットでの無自覚^{むじかく}ないじめや差別^{さべつ}を防^{ふせ}ぐためにも
必要^{ひつよう}な教^{きょう}育^{いく}であると伝える。」「まずその人^{ひと}の意見^{いけん}を聞^きいて、否定^{ひてい}しないでその人^{ひと}の背景^{はいけい}
や、どうしてそう思^{おも}ったかを知^しることで解決^{かいけつ}の糸口^{いとぐち}を見^みつける。」
一部^{いちぶ}のみを掲載^{けいさい}しましたが、本当^{ほんとう}にたくさん^よの良^いい意見^{いけん}が出^だされました。

座右^{ざゆう}の銘^{めい}はありますか？

「座右^{ざゆう}の銘^{めい}はありますか？」これも突然^{とつぜん}聞^きかれると困^{こま}ってしまう人^{ひと}も多いのではな
いでしょうか。言^{こと}霊^{だま}という言^{こと}葉^ばがあるように言^{こと}葉^ばには強^{つよ}いパワ^{パワー}があると思^{おも}いま
す。ここでいくつか著名^{ちよめいじん}人^{めいげん}の名言^よや四字熟語^{じしじゅくご}などを紹^{しょう}介^{かい}します。

○ 「一期一会^{いちごいちえ}」一生^{いっしょう}に一度^{いちど}しかない出^で会^あいなので、大切^{たいせつ}にすべきだというこ
と。人生^{じんせい}は一期一会^{いちごいちえ}などとよく聞^ききます。人間関係^{にんげんかんけい}を大切^{たいせつ}にすること、人^{ひと}と人^{ひと}
との繋^{つな}がりを感じ^{かん}じます。

○ 「もうこれで満^{まん}足^{ぞく}だというときは、すなわち衰^{おとろ}えるときである。」一万円^{いちまんえん}
札^{さつ}になった渋沢栄一^{しぶさわえいいち}の言^{こと}葉^ばです。現^{げん}状^{じょう}に満^{まん}足^{ぞく}せず、常^{つね}に上^{うへ}を目指^{めざ}すというこ
とです。満^{まん}足^{ぞく}を「衰^{すいたい}退^{たい}」と捉^{とら}えることで、常^{つね}に自分^{じぶん}をアッ^{アップ}デ^{デート}できます。

○ 「青年^{せいねん}は老人^{ろうじん}を阿保^{あほ}だと思^{おも}うが、老人^{ろうじん}も青年^{せいねん}を阿保^{あほ}だと思^{おも}う。」イギリスの
詩人^{しじん}ジョージ・チャップマン^{チャップマン}の名言^{めいげん}です。若^{わか}い頃^{ころ}は「年寄^{としより}なんて何^{なに}もわかっ
てない」老人^{ろうじん}になると「最近^{さいきん}の若^{わか}い者^{もの}は…」という。時代^{じだい}も環^{かん}境^{きやう}も違^{ちが}うとこ
ろで生^いきています。お互^{たが}いを理^り解^{かい}し思^{おも}いやることができ^{ひと}る人^{ひと}になりたいです。

○ 「雨垂^{あまだ}れ石^{いし}を穿^{うが}つ」中^{ちゅう}国^{ごく}の歴^{れき}史^し書^{しょ}から来^きた言^{こと}葉^ばです。小^{ちい}さな雨^{あめ}の雫^{しずく}でも、長^{なが}
い年^{ねん}月^{げつ}をかけて石^{いし}を砕^{くだ}くことを示^{しめ}しており、た^{ちい}とえ小^{ちい}さな努^{どりよく}力^{りき}でも続^{つづ}けていけ
ば成^{せい}功^{こう}につな^いがるという意^い味^みです。

紹^{しょう}介^{かい}した言^{こと}葉^ばは人権^{じんけん}・同和教^{どうわきやういく}育^{つう}に通^{とお}じると思^{おも}います。人^{ひと}と人^{ひと}との繋^{つな}がり^{たいせつ}を大切
にし、常^{つね}に自分^{じぶん}をアッ^{アップ}デ^{デート}することで、お互^{たが}いを理^り解^{かい}し思^{おも}いやることができ^{ひと}る
人^{ひと}になります。そして、これ^{つづ}を続^{つづ}けていくことで、差^さ別^{べつ}するとい^{まちが}う間^い違^しった意^い思^しを
砕^{くだ}いていくことができ^{おも}るのだと思^{おも}いました。主^{しゅ}事^じ 高^{たか}橋^{はし} 建^{けん}太^た郎^{ろう}